

患者の皆様へ

血液腫瘍科

現在、血液腫瘍科では、「AL アミロイドーシスの治療成績に関する後方視的研究」を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では、2008年1月1日より2016年12月31日までにAL アミロイドーシスと診断された患者様の診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「AL アミロイドーシスの治療成績に関する後方視的研究」

2. 研究の意義・目的 「AL アミロイドーシスは、アミロイドという異常タンパクが全身臓器に沈着し、臓器障害をきたす疾患です。アミロイドを産生する異常な形質細胞を減らすために、抗がん剤治療が行われます。これまでは、多発性骨髄腫（形質細胞ががん化する、アミロイドーシスの類縁疾患）に準じた抗がん剤治療が行われており、メルファラン、デキサメサゾン併用療法や、自家末梢血幹細胞移植が行われてきましたが、十分な効果とは言い難く、より良い治療法が望まれています。近年、ボルテゾミブやレナリドミドといった新規の治療薬により、多発性骨髄腫の治療成績は向上してきています。海外では、AL アミロイドーシスに対してもこれらの新しい治療が行われ、良好な成績が報告されていますが、日本における有効性は不明です。日本における各種治療の有効性、安全性が明らかになれば、より有効な治療の選択や計画に役立つことが期待されます。」

3. 研究の方法 千葉県内の病院にアンケートを行い、以下の項目などを調査します。

- ・患者さんの性別、年齢
- ・治療前の各種検査データ（採血、尿検査、画像検査など）
- ・選択した治療
- ・治療の奏効率
- ・生存率
- ・治療後の再発率
- ・2次治療までの期間
- ・治療による有害事象

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院血液研究室の鍵のかかる棚で保管します。

5. 外部への試料・情報の提供

参加施設にて調査票を記入後、研究代表施設（千葉大学医学部附属病院血液内科）に郵送する。

6. 研究組織

研究実施機関：千葉大学医学部附属病院	堺田 恵美子
千葉市立青葉病院	横田 朗
成田赤十字病院	青墳 信之
千葉県済生会習志野病院	趙 竜桓
千葉県がんセンター	菅原 武明
千葉ろうさい病院	原 暁
船橋中央病院	深澤 元晴
大網市立大網病院	杉田 泰雅
国保旭中央病院	田中 宏明
井上記念病院	松浦 康弘
亀田総合病院	末永 孝生

7. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

お問合せ窓口：成田赤十字病院 血液腫瘍科

部長 青墳 信之

：0476（22）2311 内線2208～2209（内科問合せ）